

広島県立保健福祉短期大学における入試方法・成績、 学内成績、国家試験合否の関係

本岡 直子 岩谷 和夫 佐藤 学 城本 修 堂本 時夫

広島県立保健福祉大学保健福祉学部

2002年9月17日受付

2002年11月22日受理

抄 録

広島県立保健福祉短期大学の開学から閉学の間5年間に在学した1115名の入学生（一般入試入学者：752名，推薦入試入学者：349名，社会人入試入学者：14名）について，入試方法，入試成績，学内での成績，国家試験の合否を調査して相互の関係を統計的に分析した。結果の概略は次のようである。①一般入試入学者と推薦入試入学者との間で学内成績に有意な違いはみられない。②一般入試入学者については，学内成績との相関は調査書評定平均のほうが入試4教科合計点よりも強い。③推薦入試入学者については，小論文成績と評定平均が学内成績との間で弱い正の相関を示したが，面接の成績は学内成績との相関は見られない。④国家試験合格者の学内成績平均点は不合格者よりも有意に高い。

キーワード：入試方法，入試成績，学内成績，国家試験

はじめに

広島県立保健福祉短期大学は1995(平成7年)に第1期生を迎え、1999年(平成11年)入学の第5期生を最後に学生募集を停止した。第5期生の2002年(平成14年)3月における卒業を最後に短期大学は閉学し、新たに4年制の広島県立保健福祉大学の開学をみた。短期大学における入学試験では5学科(看護学科,放射線技術科学科,理学療法学科,作業療法学科,言語聴覚療法学科)とも約7割の学生を一般入学試験(英語,数学,国語,理科の4教科学力試験)で,約3割の学生を推薦入学試験(小論文と面接)で受け入れてきた。更に1998年(平成10年)と1999年(平成11年)入学の第4,5期生については社会人入学試験(小論文と面接)で各学科とも1~2名を加えた。本報告では1995年(平成7年)から1999年(平成11年)に短期大学に入学した第1期生から第5期生の入学試験における成績と在学中の成績および国家試験の可否の関係について分析し,新たに発足した4年制大学における今後の入試制度の検討に資することを目的とした。

I 対象と方法

1 調査対象

1995年(平成7年)より1999年(平成11年)の5年間に入学した1115名を対象とした。入学者を入学者選抜方法別にみると,一般入学試験:752名,推薦入学試験:349名,社会人入学試験:14名である。

2 分析に利用した資料

(1) 入学者選抜方法とその成績

一般入学試験(以下,一般入試)と推薦入学試験(以下,推薦入試)を主たる分析の対象とした。社会人入学試験(以下,社会人入試)については入学者が少ないため分析は加えずデータを掲げるのみとした。一般入試の成績としては各教科の素点,4教科の総合点,調査書の評点を用いた。推薦入試の成績としては小論文点数,段階評価,調査書の評点を用いた。小論文は年度により,また面接はすべての年度で段階評価であったが,本報告では段階評価成績はすべて得点化(小論文:A:20点,B:16点,C:12点,D:8点,面接:A:10点,B:8点,C:6点,D:4点)して集計した。

(2) 学内成績

短期大学のカリキュラムは教養・基礎科目(以下,教養科目)と専門科目とに分かれており,教養科目は全学科共通で24科目からなっているが卒業認定のための必修科目や単位数は学科により異なっている。

また,専門科目は当然のことながら学科により科目数や卒業認定に必要な単位数は大幅に異なっている。そこで本報告では,学内成績の評価には教養科目群すべての科目の素点の平均,専門科目群すべての素点の平均,および教養科目と専門科目を合わせたすべての科目の素点の平均とを用いた。

3 集計と統計処理

(1) 入学者選抜方法と教養科目・専門科目成績との関係

5年間に入学した学生のうち,卒業した一般入試入学者(732名)と推薦入試入学者(336名)について学科ごとに2群に分けて集計し,教養科目平均,専門科目平均,教養・専門全科目平均を算出した。一般入試入学者と推薦入試入学者との間の平均値の有意差は5%有意水準でt検定で調べた。

(2) 入試成績と学内成績との関係

一般入試入学者(732名)については個人ごとの国語,数学,英語,理科の素点,4教科の合計点,調査書の評定平均を入力した。推薦入試入学者(336名)については得点化された小論文点数,得点化された面接評価点数,小論文と面接評価点の合計点,および調査書の評定平均を入力した。これらの入試成績各項目と在学時の教養科目平均,専門科目平均,教養・専門全科目平均との間の相関係数を算出した。相関係数の有意水準は5%とした。

入試得点と学内の成績の関連を解析する際に留意すべき点がある。入試得点が合格最低点未満であった不合格者の学内成績は当然のことながら得られない。このように,ある値以下(または以上)である標本が観測できないときの分布は,打ち切り分布とよばれる¹⁾。打ち切らない分布の母相関係数 ρ と打ち切り分布の母相関係数 ρ^* との間には次の関係があることが知られている²⁾。

$$|\rho| \geq |\rho^*|$$

したがって,受験者全体の入試得点と在学していたら得られるであろう成績との標本相関係数の絶対値は,在学時の入試得点と在学中の成績との標本相関係数の絶対値より大きいことが予想される。本報告では入学して最短年数で卒業した学生の入試得点と学内成績の相関係数を算出しているため,打ち切らない分布を考慮した場合には入試得点と学内成績の相関は以下で報告しているものより大きいことに留意して解釈すべきである。

(3) 入学者選抜方法、学内成績と国家試験合格との関係
 国家試験の合格と入試および学内成績との関係を見ていく場合、学科ごとの特徴が判り易いように5年間の累計で学科別に集計をした。言語聴覚療法学科については国家試験は1996年度入学生の卒業時から始まったため、1995年度入学生については集計から除外した。国家試験合格率の一般入試合格者と推薦入試合格者との間の有意差検定は5%有意水準で行った。

学内成績は教養科目、専門科目、教養・専門科目全体の平均点を学科ごとに国家試験合格者と不合格者の2群に分けて集計し、有意差は5%有意水準でt検定で調べた。

II 結果

1 入学者選抜方法と退学者との関係

1995年(平成7年)からの5年間で入学した学生は1115名であるが、そのうちで33名が退学し1082名が卒業した。学科別に5年間の累計で退学者の割合をみると、看護学科:3.98%(20/502名)、放射線技術科学科:1.29%(2/155名)、理学療法学科:1.96%(3/153名)、作業療法学科:4.58%(7/153名)、言語聴覚療法学科:0.07%(1/152名)となる。学科の区別なしで5年間の累計として入学者選抜方法ごとに退学者数を整理すると表1のようになる。一般入試と推薦入試の間では推薦入試入学者で退学の割合が高い傾向にあるが、

χ^2 検定では5%有意水準での有意差は見られない($\chi^2=0.60$)。

表1 1995~1999年度入学生の入学者選抜方法別にみた退学率

	入学者数	退学者数	退学率(%)
一般入試	752	20	2.9
推薦入試	349	13	3.7
社会人入試	14	0	0
計	1115	33	3.0

社会人入試については1998、1999年度の2年間の累計

2 入学者選抜方法と学内成績との関係

(1) 入学者選抜方法と教養科目、専門科目別にみた学内成績との関係

教養科目、専門科目、教養・専門全科目の平均点を一般入試入学者と推薦入試入学者別に学科ごとに示したのが表2である。教養科目についてみると5学科とも一般入試入学者の平均点が推薦入試入学者よりも高い傾向にあるが、有意差が認められるのは理学療法学科と言語聴覚療法学科であった。この両学科における傾向は専門科目、教養・専門全科目を通じてみられる。従って、全科目で見た場合にも有意差が認められた。一方、看護学科、放射線技術科学科、作業療法学科については専門科目では教養科目の場合とは逆に推薦入試入学者の方がやや高い傾向にあり(有意差がみられたのは看護学科のみ)、その傾向は全科目での平均点にもあらわれている。

表2 入学選抜方法別学内成績

	教養科目		専門科目		教養・専門全科目	
	一般入試	推薦入試	一般入試	推薦入試	一般入試	推薦入試
看護学科	77.8	77.5	78.3	78.9	78.2	78.7
放射線技術科学科	76.0	75.8	77.8	77.9	77.4	77.5
理学療法学科	79.9	78.0	81.9	80.9	81.5	80.3
作業療法学科	78.4	77.6	76.9	77.4	77.2	77.5
言語聴覚療法学科	80.3	78.9	82.3	81.1	81.9	80.6

は、一般入試群と推薦入試群との間で有意差(p<.05)が認められた組み合わせを示す。

(2) 入学試験成績と学内成績との相関

1) 5学科全体での入学試験成績と学内成績との相関

5学科全体での、5年間の一般入試入学者と推薦入試入学者について入試成績と学内成績の各項目の間での相関係数を求めると表3A、Bとなる。一般入試入学者(表3A)では入試4教科合計点は学内成績と弱い正の相関を示し、それにもまして調査書の評定平均がより強く学内成績と相関する傾向にあった。推薦入試入学者(表3B)では、小論文と小論文・面接合計点および調査書評定平均が弱い正相関を示したが、面接について学内成績との相関は見られない。

文・面接合計点および調査書評定平均が弱い正相関を示したが、面接について学内成績との相関は見られない。

表3 A 一般入試入学者の入学試験成績と学内成績間の相関係数(全学)

	学内成績			入試成績					
	教養平均	専門平均	全科目	4教科合計	評定平均	外国語	数学	国語	理科
教養平均	1.00								
専門平均	0.73	1.00							
総平均	0.81	0.99	1.00						
4教科合計	0.14	0.20	0.20	1.00					
評定平均	0.40	0.39	0.41	0.15	1.00				
外国語	0.20	0.14	0.16	0.51	0.10	1.00			
数学	0.07	0.07	0.07	0.41	0.09	0.14	1.00		
国語	0.12	0.13	0.13	0.27	0.09	0.16	-0.13	1.00	
理科	0.01	0.11	0.09	0.80	0.07	0.09	0.06	-0.01	1.00

(p<.05)

表3 B 推薦入学者の入学試験成績と学内成績間の相関係数(全学)

	学内成績			入試成績		
	教養平均	専門平均	全科目	評定平均	小論文	面接
教養平均	1.00					
専門平均	0.78	1.00				
総平均	0.86	0.99	1.00			
評定平均	0.20	0.19	0.20	1.00		
小論文	0.25	0.25	0.26	-0.13	1.00	
面接	-0.06	-0.03	-0.03	0.07	-0.06	1.00

(p<.05)

2) 学科別にみた一般入試合格者の入試成績と学内成績との相関

学科別にみた一般入試入学者と学内成績との間の相関を表4 A~Eに示す。一般入試入学者の場合4教科について個別の教科も設定した。いずれの学科においても調査書の評定平均が安定して学内成績と正の相関を示す。表4 A~Eにもとづいて教科の成績と学内成績との関係を学科ごとに整理すると次のようである。

看護学科：入試における4教科合計点と英語の

成績は教養科目と正の相関をするが専門科目とは相関しない。入試の理科成績は学内成績全体と弱い正の相関を示す。

放射線技術科学科，理学療法学科，作業療法学科：入試での教科の成績は学内成績と相関が見られない。

言語聴覚療法学科：入試における4教科合計点と国語および理科の成績が学内成績全体との間で正の相関が見られる。

表4 A 一般入試入学者の入学試験成績と学内成績間の相関係数(看護学科)

	学内成績			入試成績					
	教養平均	専門平均	全科目	4教科合計	評定平均	外国語	数学	国語	理科
教養平均	1.00								
専門平均	0.74	1.00							
総平均	0.83	0.99	1.00						
4教科合計	0.13	0.05	0.07	1.00					
評定平均	0.35	0.42	0.42	0.16	1.00				
外国語	0.14	0.01	0.04	0.61	0.07	1.00			
数学	-0.06	-0.08	-0.08	0.42	0.06	0.08	1.00		
国語	-0.04	0.00	-0.01	0.33	-0.02	0.10	-0.33	1.00	
理科	0.14	0.17	0.16	0.20	0.12	-0.35	-0.20	-0.05	1.00

(p<.05)

表4 B 一般入試入学者の入学試験成績と学内成績間の相関係数（放射線技術科学科）

	学内成績			入試成績					
	教養平均	専門平均	全科目	4教科合計	評定平均	外国語	数学	国語	理科
教養平均	1.00								
専門平均	0.76	1.00							
総平均	0.84	0.99	1.00						
4教科合計	0.15	0.14	0.15	1.00					
評定平均	0.41	0.36	0.39	0.13	1.00				
外国語	0.02	0.07	0.06	0.75	0.07	1.00			
数学	0.02	0.00	0.00	-0.04	-0.04	-0.02	1.00		
国語	0.01	0.11	0.09	0.34	0.14	0.12	-0.12	1.00	
理科	0.17	0.12	0.13	0.88	0.11	0.51	-0.38	0.14	1.00

(p<.05)

表4 C 一般入試入学者の入学試験成績と学内成績間の相関係数（理学療法学科）

	学内成績			入試成績					
	教養平均	専門平均	全科目	4教科合計	評定平均	外国語	数学	国語	理科
教養平均	1.00								
専門平均	0.72	1.00							
総平均	0.81	0.99	1.00						
4教科合計	0.05	-0.08	-0.06	1.00					
評定平均	0.25	0.29	0.29	-0.01	1.00				
外国語	0.14	0.16	0.16	0.55	0.08	1.00			
数学	0.06	0.05	0.05	0.09	0.03	0.03	1.00		
国語	0.06	-0.07	-0.05	0.16	0.03	-0.09	-0.39	1.00	
理科	-0.03	-0.14	-0.12	0.92	-0.05	0.35	-0.10	0.02	1.00

(p<.05)

表4 D 一般入試入学者の入学試験成績と学内成績間の相関係数（作業療法学科）

	学内成績			入試成績					
	教養平均	専門平均	全科目	4教科合計	評定平均	外国語	数学	国語	理科
教養平均	1.00								
専門平均	0.63	1.00							
総平均	0.74	0.99	1.00						
4教科合計	-0.06	0.10	0.07	1.00					
評定平均	0.40	0.40	0.43	-0.10	1.00				
外国語	0.12	0.10	0.11	0.55	0.00	1.00			
数学	0.11	-0.02	0.00	0.37	-0.04	0.19	1.00		
国語	0.15	0.06	0.08	0.08	0.16	0.19	0.28	1.00	
理科計	-0.24	0.00	-0.04	0.22	-0.13	-0.33	-0.53	-0.70	1.00

(p<.05)

表4 E 一般入試入学者の入学試験成績と学内成績間の相関係数（言語聴覚療法学科）

	学内成績			入試成績					
	教養平均	専門平均	全科目	4教科合計	評定平均	外国語	数学	国語	理科
教養平均	1.00								
専門平均	0.78	1.00							
総平均	0.85	0.99	1.00						
4教科合計	0.40	0.34	0.36	1.00					
評定平均	0.47	0.46	0.48	0.36	1.00				
外国語	0.13	0.16	0.16	0.42	-0.06	1.00			
数学	-0.01	-0.16	-0.14	0.37	0.13	-0.03	1.00		
国語	0.25	0.27	0.28	0.46	0.11	0.23	-0.38	1.00	
理科	0.27	0.29	0.28	0.62	0.38	-0.14	0.05	0.26	1.00

(p<.05)

3) 学科別にみた推薦入試合格者の入試成績と学内成績との相関

学科別にみた推薦入試入学者と学内成績との間の相関を表5 A～Eに示す。一般入試での評定平均のようにどの学科でも安定して学内成績との間で相関が見られる項目はない。

表5 A～E入試にもとづいて教科の成績と学内成績との関係を学科ごとに整理すると次のようである。

看護学科：小論文成績と小論文・面接合計点が学内成績と弱い正の相関を示す。

放射線技術科学科，理学療法学科：評定平均が専門科目との弱い相関を示す。他の入試項目は学内成績と相関が見られない。

作業療法学科：入試での面接成績が学内成績と負の相関を示す傾向にある。

言語聴覚療法学科：入試成績と学内成績との間に相関は見られない。

表5 A 推薦入試入学者の入学試験成績と学内成績間の相関係数（看護学科）

	学内成績			入試成績		
	教養平均	専門平均	全科目	評定平均	小論文	面接
教養平均	1.00					
専門平均	0.79	1.00				
全科目	0.86	0.99	1.00			
評定平均	0.18	0.13	0.15	1.00		
小論文	0.30	0.26	0.28	-0.28	1.00	
面接	0.08	0.10	0.10	0.08	-0.13	1.00

(p<.05)

表5 B 推薦入試入学者の入学試験成績と学内成績間の相関係数（放射線技術科学科）

	学内成績			入試成績		
	教養平均	専門平均	全科目	評定平均	小論文	面接
教養平均	1.00					
専門平均	0.80	1.00				
全科目	0.87	0.99	1.00			
評定平均	0.23	0.35	0.34	1.00		
小論文	0.29	0.26	0.27	-0.24	1.00	
面接	0.11	0.15	0.15	0.22	0.16	1.00

(p<.05)

表5 C 推薦入試入学者の入学試験成績と学内成績間の相関係数（理学療法学科）

	学内成績			入試成績		
	教養平均	専門平均	全科目	評定平均	小論文	面接
教養平均	1.00					
専門平均	0.74	1.00				
全科目	0.84	0.99	1.00			
評定平均	0.14	0.32	0.29	1.00		
小論文	0.04	0.12	0.11	0.07	1.00	
面接	-0.08	-0.05	-0.06	0.00	-0.22	1.00

(p<.05)

表5 D 推薦入試入学者の入学試験成績と学内成績間の相関係数（作業療法学科）

	学内成績			入試成績		
	教養平均	専門平均	全科目	評定平均	小論文	面接
教養平均	1.00					
専門平均	0.85	1.00				
全科目	0.90	0.99	1.00			
評定平均	0.24	0.31	0.31	1.00		
小論文	0.24	0.23	0.23	-0.04	1.00	
面接	-0.34	-0.28	-0.29	0.19	-0.43	1.00

(p<.05)

表5 E 推薦入試入学者の入学試験成績と学内成績間の相関係数(言語聴覚療法学科)

	学内成績			入試成績		
	教養平均	専門平均	全科目	評定平均	小論文	面接
教養平均	1.00					
専門平均	0.84	1.00				
全科目	0.90	0.99	1.00			
評定平均	0.31	0.21	0.24	1.00		
小論文	-0.04	0.07	0.05	0.04	1.00	
面接	-0.09	-0.11	-0.12	0.01	-0.04	1.00

($p < 0.05$)

3 入学者選抜方法, 学内成績と国家試験合格との関係

短期大学卒業生は基本的に全員がそれぞれの学科に対応する国家試験を受験する。1995年から1999年に入学した学生が卒業した年に受験した国家試験合格率の学科ごとの年推移を図1に示す。図1にみられるように国家試験の合格率は国家試験の種別と年により変動をしている。これらを入学者選抜方法別に見ていく場合には5学科をあわせて集計して評価するには無理があるので、5年間の累積結果を学科ごとにまとめた(表6)。各学科内の一般入試入学卒業生と推薦入試入学卒業生を比較してみると作業療法学科以外では推薦入試入学者の合格率が低い傾向にあるように見える。しかし、この両者の間に5%有意水準(χ^2 検定)で差が見られたのは放射線学科だけであった。

表7には学科別の国家試験合格者と不合格者の教養科目, 専門科目, 教養・専門科目全体での平均点を示

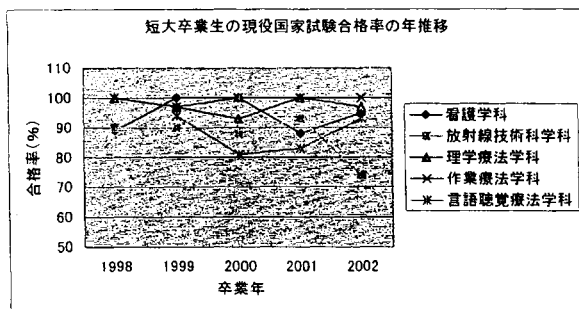


図1 短大卒業生の現役国家試験の合格率の年推移

す。表には作業療法学科の場合には不合格者数が少ないため集計されていないが、言語聴覚療法学科の教養科目以外は国家試験合格者の学内成績は不合格者よりも有意に高いといえる。

表6 入試方法別'95~'99年度入学生の卒業時の国家試験合格率

	入試方法	卒業生数	受験者数	合格者数	合格率(%)
看護学科	一般	330	329	315	95.7
	推薦	146	146	134	91.8
	社会人	6	6	5	83.3
	小計	482	481	454	94.4
放射線技術科学科	一般	105	105	96	91.4
	推薦	45	45	35	77.8
	社会人	2	2	1	50.0
	小計	152	152	132	86.8
理学療法学科	一般	99	99	98	99.0
	推薦	49	49	46	93.9
	社会人	2	2	2	100.0
	小計	150	150	146	97.3
作業療法学科	一般	98	98	97	99.0
	推薦	46	46	46	100.0
	社会人	2	2	2	100.0
	小計	146	146	145	99.3
言語聴覚療法学科	一般	79	79	72	91.1
	推薦	40	39	32	82.1
	社会人	2	2	1	50.0
	小計	121	120	105	87.5

言語聴覚療法学科については'95年度入学生を含まない。

表7 各学科別国家試験合格者および不合格者の学内成績の平均点

	教養科目		専門科目		教養・専門全科目	
	合格者	不合格者	合格者	不合格者	合格者	不合格者
看護学科	77.8	75.6	78.6	76.1	78.5	76.0
放射線技術科学科	76.4	72.6	78.2	74.8	77.9	74.4
理学療法学科	79.3	75.3	81.8	74.8	81.3	74.6
言語聴覚療法学科	80.0	78.4	82.0	79.1	81.6	79.0

は、合格者群と不合格者群との間で、有意差($p < 0.05$)が認められた組み合わせを示す。作業療法学科は、不合格者の人数が少ないため、削除。

Ⅲ 考察

1 入学者選抜方法と退学者数との関係

5年間に入学した学生のうち全学科で3%にあたる33名が退学をした。統計的な有意差はみられないが、退学率は一般入試入学者よりも推薦入試入学者のほうがやや高い。他大学の報告をみると、東京都立医療技術短期大学での報告³⁾で同様の結果が示されているが、山口大学医学部医学科での報告⁴⁾では逆に推薦入試入学者の退学率は一般入試入学者よりも少ない。医療系短期大学と医学部医学科では推薦入試入学者の意識や意欲が違っている可能性が考えられる。本学の退学者の理由は他大学受験、専攻分野への不適合、経済的理由、学業を続けることへの疑問、などがあげられている。兩人試方法の間で入学後の成績に大きな成績の違いは見られていない(表2)ので、学力以外の要因が大きいものと考えられる。前述の東京都立医療技術短期大学での報告³⁾では推薦入試による学生では就学継続の意志や国家資格取得に関する意欲面などの学力以外の要因が、一般入学の学生に比べ低下している可能性を挙げている。推薦入試の入学者選抜に際しては就学の意志の確認、進路選択のあいまいさの除去などをより徹底して実施する工夫が必要と考えられる。

2 入学試験成績と学内成績との関係

一般入試入学者と推薦入試入学者の学内成績を平均点で比較すると両者の間にほとんど差は見られない(表2)。あえて違いを見出せば教養科目ではどの学科においても一般入試入学者がやや高い。しかし専門科目では3学科で推薦入学者がわずかに高くなっている。全体として理解すると、高校時代の学習と比較的関連をもつ教養科目では教科の学力試験を通過してきた一般入学者が成績上位となるが、大学で初歩からの学習を始める専門科目では入学方法の違いは少なくなる傾向にある。この現象は山口大学医学部⁵⁾や佐賀医科大学⁶⁾での調査においても示されている。本学においても教員、学生を問わず推薦入学者は基礎学力が不足している旨の発言をよく耳にするが、基本的にそのような事実はないものと思われるし、むしろ学年進行とともに推薦入学者の成績が良好になっていることを資料は示している。

入学試験時の成績が学内成績とどう関係しているかということ、自らの大学の資料で整理しておくことは、今後の入試制度を議論する上で非常に重要なことである。今回の分析では一般入試入学者の場合、評定平均が入試4教科の合計点よりも強く学内成績と正の相関をすることが示された。また推薦入試入学者の場合、小論文成績が評定平均と同程度かやや強く学内成績と正の相関をすることが示された。推薦入試の場合、面

接の成績と学内成績との関係に興味をもたれたが相関は認められない。面接成績については今回A, B, Cの段階評価を得点化した集計上の影響も除外できない。一般入試では4教科学力試験を課しているので、学科によっては特定の入試科目成績と学内成績が関係していることが期待されたが言語聴覚療学科で国語と理科の入試成績が学内成績と弱い正の相関を持つ程度の知見しか得られなかった。入試科目と学内成績との関連は学内の主要必修科目などとの関連でみていく必要がある。

このような入試分析は数少なくしか見受けられず、ましてや医療系短期大学についてはほとんど見られない。そのため、性格が比較的に通ったと考えられる医学部医学科で行われた分析を含めて他大学の例を見てみると、他大学の医学部医学科^{5,6,7)}や医療系短期大学³⁾の入試成績と学内成績の分析においても入試学力試験成績と学内成績との間には相関関係はないか非常に弱いとされている。一般に入試得点と学内成績との関連をみていく場合に「相関がない」という結果に対しては、用いたデータが「打ち切りデータ」に基づくことに起因するという指摘がある。今回の我々の分析も入学者のみのデータに基づく「打ち切りデータ」であるので学力試験成績と学内成績との間に相関がないとの結論付けは控えたい。医学部の一般入試入学者⁵⁾において「高校概評」(本報告での評定平均に該当する)が強く学内成績に関係していると報告されている。一般入試入学者、推薦入試入学者ともに調査書の評定平均が他の指標よりも有効であることが予測された。また様々な入試方法をとってきた宮崎医大⁷⁾の場合には小論文の成績が信頼できる指標であることが示されている。今回の我々の分析においても、推薦入試入学者においては小論文の成績は評定平均と同じかそれ以上に学内成績との相関が得られている。

入試成績との関係とは別に表3～表5のすべてに現れているように、教養科目成績と専門科目成績との間には非常に強い正の相関が見られる。他大学の例でも全く同じような傾向が示されている^{4,5,6,7)}。概ね次のようなことがいえるだろう。入試の方法や成績にかかわらず、教養科目でよい成績をとる学生は専門科目でもその傾向をもち続け、国家試験成績合格にも繋がっていく。

以上の事柄を考慮し今後の入試制度を考える上で、①入試学力試験の大学教育に対する意味づけ、②入試での調査書評定平均の有効利用、③小論文試験のさらなる発展・工夫、④面接試験のあり方の再考、などが課題として考えられる。

3 入学者選抜方法、学内成績と国家試験合格との関係

国家試験合格者を入学者選抜方法別にみた場合には、やや推薦入学者の合格率が低い統計的有意差はみられない。推薦入学者の中に学力不足者がいて、在学中からうじて単位を取得し、国家試験には不合格だったという学生が数人でもいれば、合格率の低さという数字に出てきている可能性がある。従って、この数字のみでの議論はすべきでない。むしろ表7にみられるように国家試験合格者と不合格者との間には、学内成績の平均点に有意な差があり、在学中に良い成績を残す学生ほど国家試験合格の可能性が高いといえる。

東京都立医療技術短期大学の場合³⁾には理学療法学科と診療放射線学科において学内の主要科目の成績から国家試験得点予測式を導き出している。同様な作業が必要かどうかについては議論のわかれるところと思われる。

おわりに

本報告では、広島県立保健福祉短期大学の開学から閉学までの間に在籍した学生について入試、学内成績、国家試験の関係を調べた。全体として概観すると、入試方法（一般入試か推薦入試か）や入試成績よりも高校での学習記録が大学入学後の成績により強く反映され、且つ大学での成績が国家試験にも強く反映されると思われる。但し、もう少し細かい分析を加えれば別の側面もみえる可能性は残されている。本報告は短期大学生についての分析であり、ここで得られた結果を現在の大学の入試制度や大学教育の有り方の議論に直結させるわけにはいかないが、議論の参考となる部分は大きいものと信じる。

謝辞

入試および学内成績資料の整理に多大な協力をしていただいた教務課の西村直樹主任主事と今岡雅英主事に深謝いたします。

文献

- 1) Cohen, A.C.: Truncated and censored samples: theory and applications. New York, Marcel Dekker, 1991
- 2) 一松信, 竹之内脩編. 改訂増補 新数学辞典, 大阪, 大阪書籍, 1991
- 3) 柳澤健, 新田収ほか. 東京都立医療技術短期大学生の入学・在学時成績と医療系国家試験合格との関係. 東保学誌, 2: 16-21, 2000
- 4) 原田規章, 中本稔. 医学部における入学者選抜方法と入学後の経過について—山口大学における追跡調査から— (1) 入学形態と入学後成績, 新旧, 国試合格との関連. 医学教育, 28: 35-40, 1997
- 5) 原田規章, 中本稔. 医学部における入学者選抜方法と入学後の経過について—山口大学における追跡調査から— (2) 入学後の経過に及ぼす要因の多変量解析. 医学教育, 28: 77-83, 1997
- 6) 小橋修, 高崎光浩ほか. 推薦および一般選抜入学の学生の学内成績, 医師国家試験成績の追跡調査. 医学教育, 28: 23-33, 1997
- 7) 大桑良彰. 宮崎医科大学における入試の追跡調査—入試成績と学内成績の関係. 医学教育, 31: 181-193, 2000

Relationship Between Scores of Entrance Examinations and College Performance Study at Hiroshima Prefectural College of Health and Welfare

Naoko MOTOOKA Kazuo IWATANI Manabu SATO
Osamu SHIROMOTO Tokio DOMOTO

Faculty of Health Sciences Hiroshima Prefectural College of Health Sciences

Abstract

The purpose of this study is to perform statistical analyses to determine if there is any possible relationship between students' academic performance during college studies and entrance selection methods. The analyses were done on items including the methods of entrance examination, results of the entrance examination, academic performance after admission, the number of dropouts and success/failure in the national examination.

The subjects were 1115 students who had entered Hiroshima Prefectural College of Health and Welfare from 1995 through 1999. 752 students have entered with regular entrance examinations, 349 students have entered after special examinations for those who had been recommended by their high school principals, and 14 students have entered with special examinations for adults.

The results are summarized as follows: (1) No significant difference was found between students who entered by regular entrance examination and those who entered by recommendation on average academic record during college studies. (2) In the students who entered with regular entrance examinations, the high school record is positively correlated to the academic record during college studies. (3) In the students who entered with recommendation entrance examinations, results of essay tests and high school record is positively but weakly correlated to the academic record during college studies. (4) As to the national examination for health professional, those who passed the examination showed higher scores of the academic performance during college studies than those who failed in it.

Key words : entrance selection, results of entrance examination, academic performance, national examination for health professionals